

学校の中の個別最適な学びとは

中邑 賢龍

東京大学先端科学技術研究センター

学校に違和感を感じる不登校傾向の子ども

不登校の小・中学生

181272人0.8%(小) 3.9%(中)

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2020/10)

2018年12月 中学生の10人に1人が不登校状態 (日本財団調査)

学校の中で個別最適な学びを実現する 3つの方向性

- 1 ICTの活用
- 2 時間・空間を超えたもう1つの学びの場
- 3 リアリティあるアクティビティ中心の学びの場

1 ICTの活用

OECD PISA2018調査

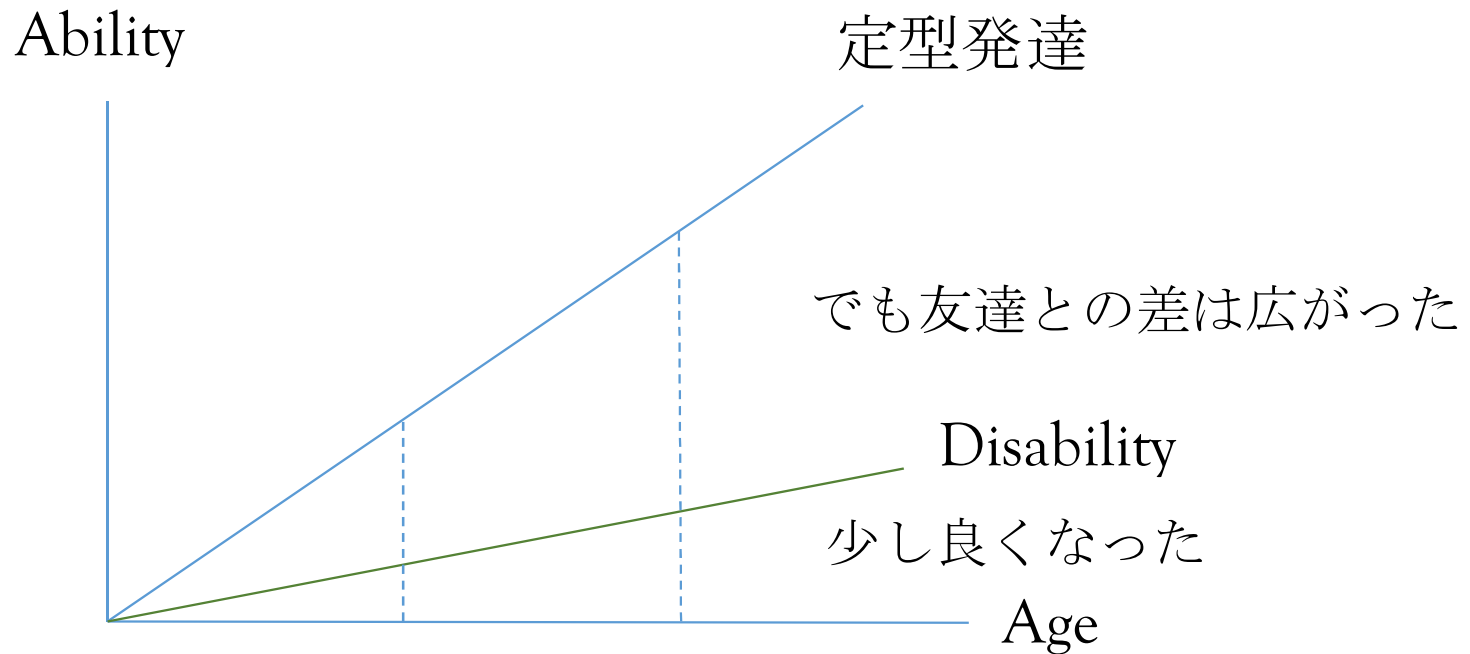
- 日本の教育のICT化の遅れ
- 子どもの生活へのゲームの浸透
- 子どものICT活用に関する調査 31カ国中

国語の授業で利用しない	83.0% (最下位) 平均48.2
宿題にICTをほとんど使わない	78.8% (最下位) 平均21.2%
一人用ゲームでほぼ毎日遊ぶ	47.7% (1位) 平均26.7%

COVID-19の流行で分かった事

- 教師のICTリテラシーの課題
- 学習の経済格差
- 学校の授業が苦手な子の存在がクローズアップ
不登校児がオンライン授業なら参加
- オンライン教育の可能性

テクノロジーで代替しないと追いつかない子がいる



アルテクによる認知エンハンスメント

- 読み 電子図書、読み上げソフト、拡大ソフト、ルビソフト、辞書
- 書き ワードプロ、デジカメ、ICレコーダ
- 計算 電卓、電子マネー
- 記憶 デジカメ、ICレコーダ、
- 思考 マインドマップ
- 見通し スケジューラ、タイマー
- 感覚 ノイズキャンセリングヘッドフォン、サングラス
- 注意 リマインダー、ノイズキャンセリングヘッドフォン
- ナビゲーション GPS
- コミュニケーション 電子メール・デジカメ・ICレコーダ
- 学校 インターネット／オンライン教材

子どもが皆同じである事を前提とする教育の転換

- 読み書き計算はICTの活用をある時期から認める
- スマホやタブレットを持ち込んだ試験の実現
- 認知特性の違いで苦手な教科が存在する
- 中学校で選択科目を設けるべき
プログラミングなど
- 高校や大学入試の科目の選択制も必要では？

障害者差別解消法の中に 「合理的配慮」が明記される

支援技術の活用や環境調整が必要ならそれを申請し、
当事者間で合理性を議論できるようになった

*東京都は条例化で後押し

DO-IT Japan (<http://doit-japan.org/>)

- 2007年開始
- 障害のある子へPCやタブレットなどを与え大学受験を支援
- 多くの子供達が配慮を得て大学進学を果たす
- 入試制度が徐々に変化・大学進学率の向上

2 時間・空間を超えたもう1つの学びの場

明るく・仲良く・元気よく

- 組織や集団の中では望ましい標準的な人間像が決まっている
- その特性に合った人は優秀な人
- その特性に合わない人は努力して変わらなければいけない
- 嫌でも協働しなければいけない

個より社会を優先する社会

持続的イノベーションにはいいが破壊的イノベーションは起きにくい

適応出来なければ何でも発達障害に

間違った障害観

治療の対象に・・・

教育に追い詰められ、自信を失い、不登校に・・・

薬に潰される子どもも・・・

発達障害は性格や認知の偏りにすぎないのでは？

環境が合えば何も問題なく生活できる人も多い

イノベーティブな変人が潰されている



自分のペース・興味を保てる場の必要性

- 学区に仲間がいなくても日本の中にはいる
- 人と違うことをやってもいい
- 自分のペースで進めていい
- 担任の先生だけが教師ではない

そんな学びの場を作るには？

学校にも特区を作れば・・・ オンラインで繋がる

お休み券の発行 どこにでも飛び出して学ぶ

教師が好きなことを教えていい時間があれば

3 リアリティあるアクティビティ中心の学びの場

学びにリアリティとレジリエンスを

- 脱5教科中心教育 脱受験教育
- アクティビティの評価を高めるべき
お手伝いと家庭内での役割
- 家庭やコミュニティとの連携
ダイナミックな宿題
- ゆるやかな目的と計画の活動の中で大人と学ぶ

百貨店は百科事典



氷で火を起こせ！



ブラックボックスを理解する

昔の技術に学ぶー湿板カメラ



はしからはしまで



エネルギーを探せ



イノベーティブで
創造性があり
国際的な子どもを育てる・・・？

今の学校ではそれが難しいのでは？

時間・空間を超えたよりダイナミックな学校の必要性

やり続ける先に見えるモノ展

<https://atac-lab.com/yaritsuzukeru/>

誰に褒められるためでもなく。
描き続ける人たちがいる。

万能ではない、異才の人たち。
彼らは人の評価を気にしない。
わかるかどうかを考えない。
ただ止むに止まれぬ思いから、描き続けている。

芸術の世界で認められることは
ないのかもしれない。
でもそこには、熱量がある。
芸術の枠を超えた、圧倒的な何かが
彼らの作品にはある。

アートとは本来、そういうものなのではないか。
彼らの作品を見ているとそう思えるのだ。

